



1 自社で開発した生産システムを利用して生産性と品質の向上を追求 2 「NTN」のロゴマークが刻印されたラジアルボールベアリング 3 製品などを説明する山中和彦社長 4 ベアリングユニット（写真奥）などの主力製品

かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

作

5

創

「産業の米」の品質 支える現場力

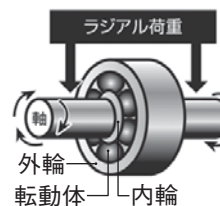
株式会社NTN金剛製作所

ベアリングの精度はマイクロン（1000分の1ミ）以下の世界。鍛造や旋削で形を整え、熱処理を施した後、表面と軌道溝を研削し、内輪と外輪の間に転動体

あらゆる機械の回転部を支えるベアリング（軸受け）の大手メーカー・NTN。その生産拠点の一つ、金剛製作所では、自動車をはじめ、産業・農業機械向けの製品などを幅広く手掛けています。「縁の下の力持ち」。山中和彦社長がこう表現する通り、身の回りの様々な機械や装置にその技術が確かに組み込まれています。

（鋼球を入れ組み立てる）。同社の原点、「ラジアルボールベアリング」（下図参照）の製造工程では、最先端の技術を駆使した設備の自動化・省力化により、生産性と品質の向上を追求しています。また、様々な形状と材質の軸受箱を組み合わせた「ベアリングユニット」は、取り付けが容易にできるため、産業機械分野などで活躍。中でも、代表的な形の「ピローブロック」は昭和30年代から手掛ける製品で、同52年に製造を開始した自動車用の「クランチレリーズベアリング」とともに、グループ内で同社がその生産を一手に引き受けています。

山中和彦社長は胸を張ります。現場では、材質の変化に対応し、特殊な熱処理を標準化させるなど、独自に開発した設備を使って、ここにしかないノウハウを日々蓄積しています。ベアリングに求められる性能は年々厳しさを増しています。「今後も供給体制を整え、選ばれる企業を目指したい」と山中和彦社長。同社は現場力を武器に、ベアリングが秘める力を引き出しながら、私たちの暮らしを支え続けます。



軸に対して上から加わる力（ラジアル荷重）を支えながら、スムーズに回転することが求められます。

※鍛造：プレス機で大きな圧力をかけて内輪、外輪の形をつくること。旋削：削って、おおよその形と寸法にすること。研削：摩擦を少なくするように表面を磨き上げること。



株式会社 NTN金剛製作所

1925年創業。2年後、市内に移転し、金剛ベアリング（株）に改称。61年に東洋ベアリング製造（株）と業務提携し、89年に現在の社名に。地域とともに歩む企業を目指し、社会貢献、自然環境保護活動にも参加。滝畑地区で間伐や植樹に取り組む。
<http://www.ntn-kongo.co.jp>